

# 社会人大学院生としての経験談

発達支援学専攻・准教授 赤塚正一

主な担当科目：特別支援教育学特殊講義A、演習、  
（分担）発達支援学原論特殊講義  
コースプロジェクトB

専門分野：特別支援教育  
（発達障害児の地域支援システム研究）

# キャリアアップの概要

年齢	職業	大学院
20  30  40  50	<p>◇中学校教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科</li> <li>・特別支援学級担任</li> </ul> <p>(LD、ADHD等のある生徒の指導)</p> <p>◇長野県総合教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事</li> </ul> <p>◇特別支援学校教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談専任</li> </ul> <p>37年間勤務(含:教育行政)</p>	<p>(信州大大学院、内地留学を希望→不可)</p> <p>☆明星大学通信制大学院人文学 研究科教育学専攻修士課程(46)</p> <p>☆明星大学通信制大学院人文学 研究科教育学専攻博士後期課程 (51)</p>

# 大学院で学びたいと考えるようになった経緯

- 中学校で特別支援学級の担任として、LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害などの生徒の指導
  - 「発達障害(特にLD)の専門的な知識を高めたい」
  - 日本LD学会会員、「特別支援教育士」の資格取得
  - 「発達障害について、より系統的に学びたい」
  - 日本特殊教育学会(於:上越教育大学)のシンポジウム発表者から影響を受ける
- ⇒ 「現職のまま大学院で学びたい」

◇出願に際し不安だったこと

## ①仕事との両立

- ・中学校教諭として土曜日に部活動の指導もあった。

## ②全く経験のない「研究活動」「論文執筆」

## ③そもそも入学できるのか

# 中学校教員をしながらの大学院生

- 日曜、祝日に各科目で指定された文献により学び、2本のレポートを提出。レポート評価が通ると科目試験を受験(20単位、8科目)。
- 年3回スクーリング(3日間、15コマ)  
修士論文中間発表会
- 日曜、祝日、長期休業を中心に研究活動(メールでのやり取り)と修士論文執筆(一定の記述完了⇔添削の繰り返し)
- 仕事疲れで先延ばし、締め切り間に提出。
- 科目試験の準備が大変
- 回が進むにつれて参加者が減少
- 個人的に東京まで直接出向いて指導を受けた回数は、7~8回

仕事と大学院での学び・研究(修士論文作成)の両立は、可能

# 大学院で学んだ結果、得られたもの

- 学んだことは、仕事(巡回相談)に大いに役立った。
- 1つの事象を多角的な視点から捉えることができるようになった。
- 学会発表や学会誌への論文投稿により、他の研究者との繋がりができ、研究意欲も更に高まった。
- かけがえのない恩師との出会い
- (通信制ながら)学位の取得:修士(教育学)博士(教育学)

# 博士論文

平成 18 年度 明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修士論文研究論題  
通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある  
児童の小中学校間の移行支援に関する研究

学籍番号 05SK0001  
氏名 赤塚正一  
指導教員 大石 幸二

明星大学

# 修士論文

発達障害のある子の就学期の移行支援体制構築に関する研究  
—巡回相談を基盤とする連携・協働モデルの効果の検証と  
将来に向けての移行支援モデル試案—

赤塚 正一